

馬の耳に念仏

言葉の意味

馬にありがたい念仏を聞かせても、馬はそのありがたさを理解できず、無駄になります。愚かな人も他人からの忠告や意見に耳を貸さずとしません。



せっかく役に立つ言葉をもらっても、ありがたみがわからないことのとえとして使われます。

こんなふうに使うよ



馬の耳に念仏
 みたいね



馬の耳に念仏と
 言われないように
 しっかり話を聞こう

習二君の
 馬の耳に念仏



はい



お兄ちゃん
 ご飯だつて



みんなと
 一緒に
 食べた
 ほうが
 いいよ



ゲームに
 夢中で
 馬の耳に
 念仏か



しょうが
 ないわね



ん!



やった



耳は
 聞きは
 やく
 鼻は
 くさく
 ね



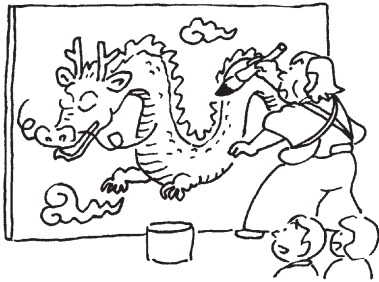
しゅうじ君の ことわざ。

画龍点睛

(がりようてんせい)

言葉の意味

龍の読みは「りゅう」ではなく「りよう」。正しい字は「りよう」ではなく「晴」で晴の意味です。龍(竜)の絵は、最後に瞳を描いて初めて完成します。完成させるための「仕上げ」のことです。



「画龍点睛を欠く」と用いることが多く、最後の仕上げが不十分で、詰めが甘いことを指摘する時に使われます。

こんなふうに使うよ

最後の「筆」まで画龍点睛を忘れずに



仕上げが甘かった画龍点睛を欠いたなあ



習二君の画龍点睛

画龍点睛には言葉の由来があるぞうだ



昔、中国に優れた画家がいてお寺の壁に龍の絵を描いたんだ



ところがその龍には目がない

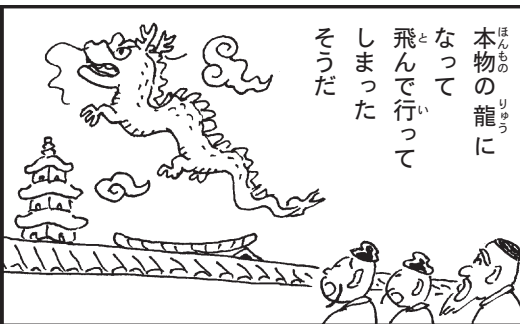


目を描いてください

いいけど目を入れると……



本物の龍になつて飛んで行ってしまったぞうだ



僕が書いた龍の字も



ほらね



風に吹かれただけでしょ



花粉症なんだから窓閉めて

